

# 試験を通して品質を学習する会 S I G

2018年 活動計画 ver1.00

2018/04/01

大坪 正晴

「本活動は資格試験主催団体とは関係のない自主的な活動であり、主催団体から資格試験に関する情報供与は一切受けておりません。」

# SIGの名称・目的・目標

## ▶ SIG名称

- ▶ ソフトウェア品質技術者試験（JCSQE）を通して品質を学習する会 S I G

## ▶ 当SIGの目的

- ▶ ソフトウェア品質技術者試験(JCSQE)の学習を通して、ソフトウェア品質についての知見を身につける
- ▶ 品質に対する基本知識の習得
- ▶ 品質トピックの討議（インスペクション、オフショアなど）

## ▶ 当SIGの目標・成果物

- ▶ 成果物 : 受験対策勉強法の作成と公開  
学習テーマの公開  
使用したメインテキスト

# SIGの活動内容

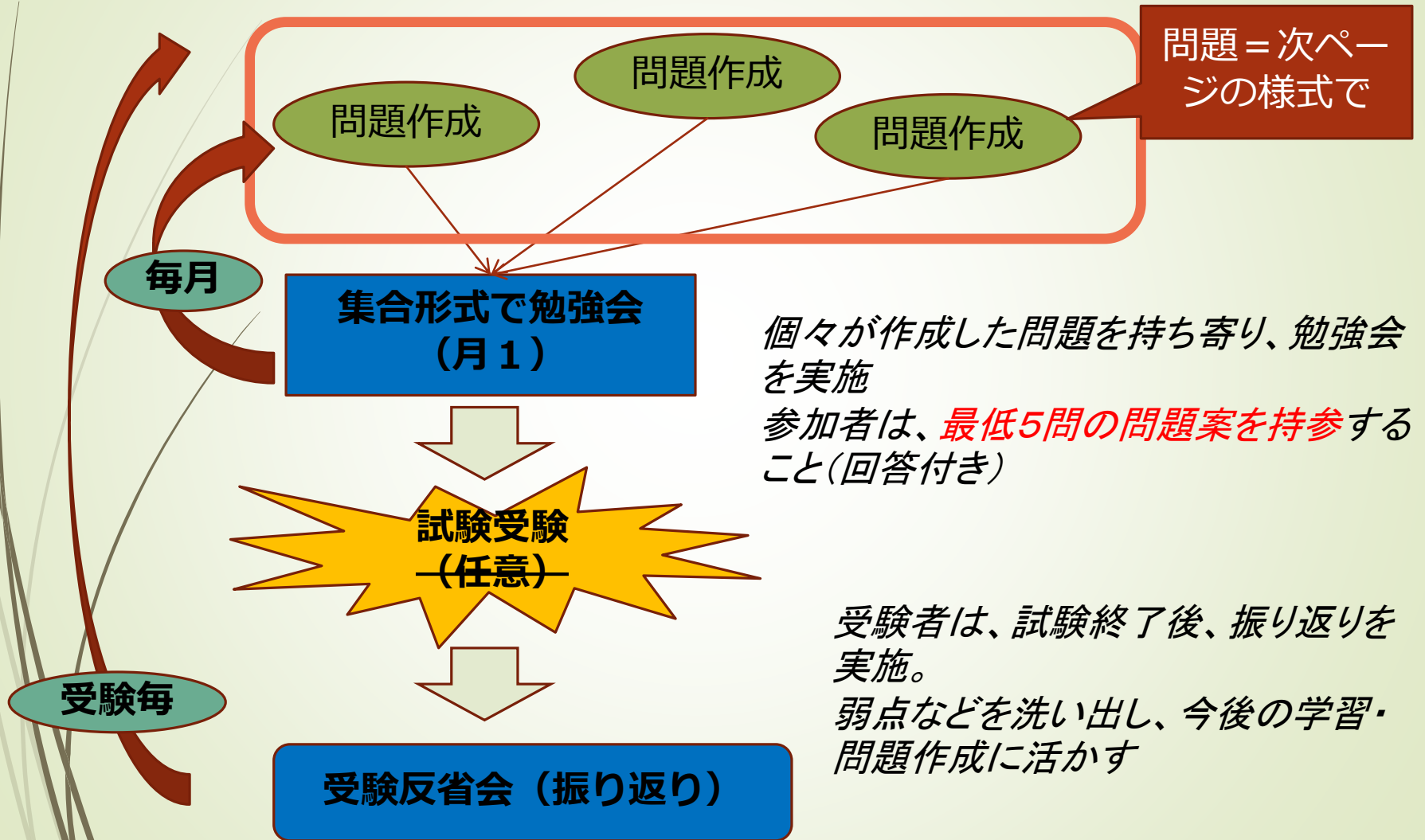
- ▶ 事前課題：SQuBOKの該当章について、勉強会用の問題案（回答付き）の作成【自習】  
様式は、次ページ
- ▶ 定期的集まり、メンバーが作成した問題（別紙参照）を使用して、学習する  
【初級…答練形式】一定時間内で、各自持ち寄った問題を回答し、答合わせを実施。（SQuBOKの参照無し）  
【中級…討議】品質管理上のテーマに対し、SQuBOKを参照しながら、対策案を議論する。
- ▶ 有志による試験直前の集中勉強会の実施
- ▶ 有志による試験受験後の振り返りの実施

2017年メイン活動

## 注意事項（再掲）

- ▶ 「本活動は資格試験主催団体とは関係のない自主的な活動であり、主催団体から資格試験に関する情報供与は一切受けておりません。」
- ▶ 本活動は、自主的なものであり、活動内容に対するクレーム等は、主催団体ではなく、SIGリーダーへお願いします。

# SIGの活動内容（イメージ）



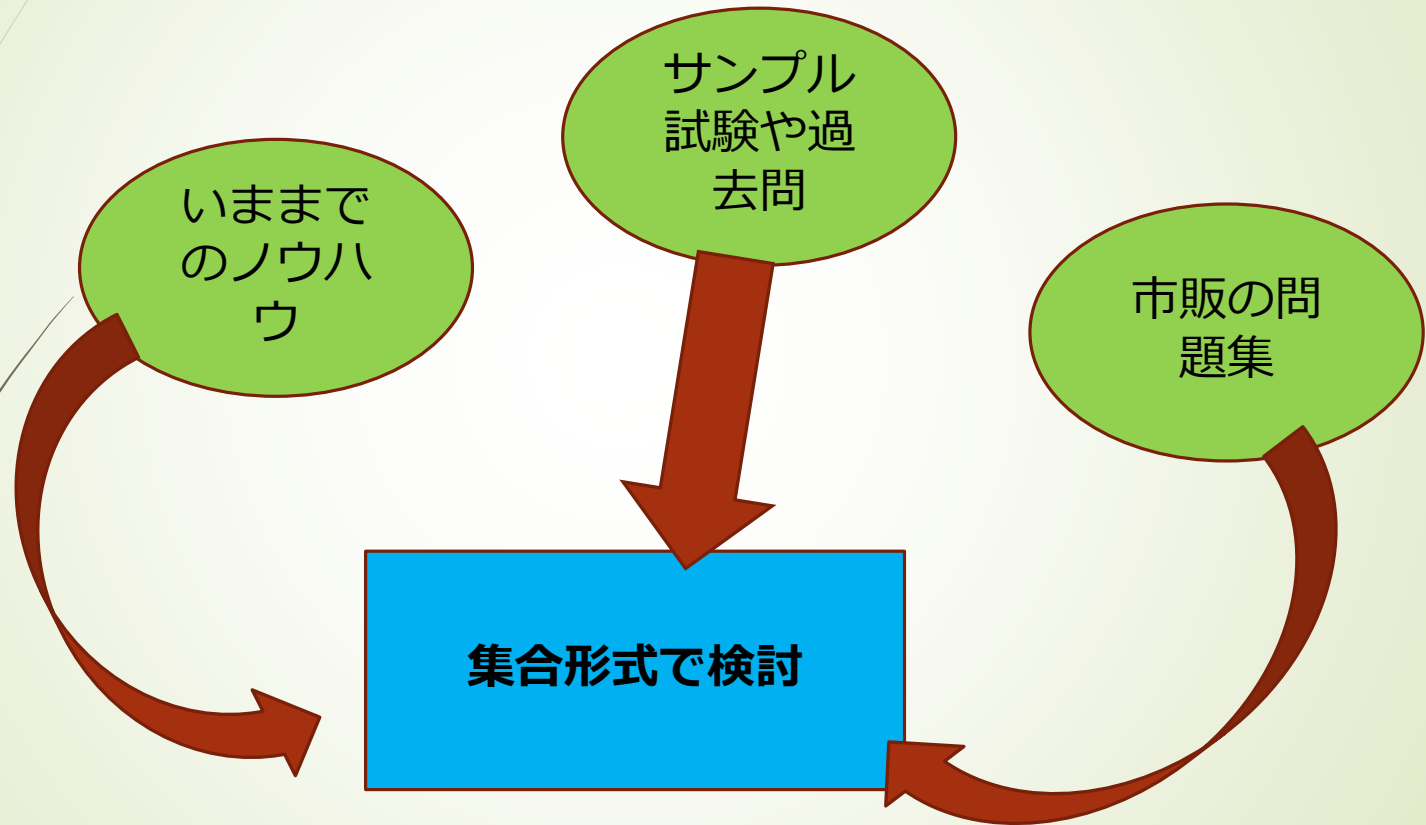


# 問題案 (2015/05/27 で使用したもの)

ソフトウェアプロセスをアセスメント・改善するためのモデルでないものは	IDEAL	ポストモーテム	ETSS	落穂拾い	Ver1	2.3	プロセスアセスメント・プロセス改善のマネジメント	ウ ETSSは、経済産業省が2005年5月に策定・公表した「組込みスキル標準」である。
PL 法を説明した文は以下のうちどれか？	本法による責任は「製造または加工された動産」が対象となるため、プログラムだけでも法の対象となりうる	組込み機器のようにハードウェアと一式となって製品を為す場合は、本法の対象になり得る	製造物責任法では「過失」、及び「欠陥」の存在を立証しなくてはならない。	財務報告に係る内部統制の評価と報告を義務付けるものであり、違反した場合、罰則がある。	Ver1	2.7.1.6	PL 法 (製造物責任法)	イ ア：プログラムだけではPL法の対象外。 ウ：欠陥のみの立証でよい。エ：J S O X法の説明 (覚える必要なし)
品質機能展開を説明した文は以下のうちどれか？	製品 (JIS Q 9000) に対する品質目標 (JIS Q 9000) を実現するために、さまざまな変換および展開を用いる方法論	分割されているモジュールを一つの図等に展開し、モジュール分けの妥当性、インタフェース設定の適切性を確かめる技法	品質機能展開の目的は、競合他社の製品より優れた品質を持つ新製品を開発するときに利用可能な方法論の提供である	市場や顧客の要求項目・品質と品質要素・特性を組み合わせて、両者の対応を表現する品質表を作成することが、重要である。	Ver1	3.3.1.2	品質機能展開	ア ア：正しい。イ：モジュール展開の技法。 ウ：方法論の提供よりも、品質保証の仕組みとして提供されることが多い。エ：品質表の作成よりも、そこでとらえた品質を作りこむためにどのように業務で展開するかが重要
稼働率の公式は？	稼働率 = MTBF / (MTBF + MTTR)	稼働率 = MTTR / (MTBF + MTTR)	稼働率 = (MTBF + MTTR) / MTBF	稼働率 = (MTBF + MTTR) / MTTR	Ver1	2.17.1.7	サービスの可用性マネジメント	ア MTBF (Mean Time Between Failure) は平均故障間隔 (故障間隔の和 ÷ 故障回数)。 MTTR (Mean Time To Repair) は平均復旧時間 (復旧時間の和 ÷ 故障回数)。

このような様式で自身で問題を作成

# SIGの活動内容（イメージ）



# SIGのメンバー

▶ SIGメンバー (2018/04/01 時点)

氏名	所属	リーダー
大坪 正晴	一応、非表示	○

メンバーは毎年交代します。  
詳細は募集要項で。

**9月くらいからから、募集開始予定**





# 活動場所（2018年 予定）

- ▶ J R 東京駅／有楽町近辺（昨年と同じ）
- ▶ 神保町・九段下近辺  
などを検討中

# 活動時期 (2018年 予定)

	イベント	
5月		
6月	初級試験	
7月		
8月		
9月		
10月		中級試験対策 答練＋記述対策＋直前対策
11月	初級試験 中級試験	

# SIGメンバーの募集要項【重要】

- ▶ メンバーの募集 前提条件
  - ▶ メンバーの条件として、最低でも2回に1回は参加できること。
  - ▶ 欠席が多い場合は、退会になります。
  - ▶ まじめに問題を作成することができること【必須】
  - ▶ まじめに学習するかた【必須】
  - ▶ S Q u B O K 第二版を所持していること【必須】
  - ▶ 宿題の実施は必須。出来ない場合は、目的を達成できないため、退会となります
  - ▶ 受験した場合、試験結果や得点について、公開できること【後々のフィードバックに必要】
  - ▶ **受験しない方は、参加しない方がよろしいです。**
- ▶ メンバーの人数
  - ▶ 事前の問題収集・事後の配布、会議室の広さや勉強形態を考えると、MAX10人（セミナー形式ではないため）
  - ▶ メンバーは一年～半年の固定制。年度毎に入れ替えます。  
問題の収集/配布等を考えるとMLを利用したいが、毎回メンバーが異なると管理が難しくなるため、固定とする
- ▶ メンバーの募集方法
  - ▶ 日科技連のS Q I Pコミュニティメールで募集。【別途 計画中】
- ▶ メンバー応募の連絡先
  - ▶ SIGのリーダー宛ML：問題の収集用    [study-jcsqe-pl@juse.or.jp](mailto:study-jcsqe-pl@juse.or.jp)
  - ▶ SIGメンバー全員のML：問題の回答配布用

# 告知方法（案）

- ▶ SQiPコミュニティのM L  
キックオフ前、及び 適時
- ▶ ホームページでの紹介
- ▶ カフェソフトウェアクオリティでの紹介
- ▶ S Q i P シンポジウムでの紹介  
年1回。成果発表も兼ねる

## その他

- 約2時間の学習時間のうち、前半で、メンバーの作成してきた4択形式の問題を解きまくり【初級対策】、後半は事例を基に、回答案を検討する【中級対策】。
- 但し、やり方はケースバイケース。参加者の集まり具合などで変更する可能性あり。
- 2018年度については、受験対策のための知識の刷り込み、+直前対策に重点を置く（方法については、別途検討中）